

平成30年度第1回向日市総合教育会議会議録

日 時：平成31年1月22日（火）

午後4時00分から午後5時00分まで

場 所：向日市役所 大会議室

出席者：安田市長、永野教育長、白幡教育長職務代理者、松本教育委員、
流石教育委員、中野教育委員

事務局：小賀野教育部長、清水ふるさと創生推進部長、渡辺教育部副部長兼文化財調査事務所長、玉城教育部副部長兼文化資料館長、
松下教育部副部長兼学校教育課長兼学校給食センター所長、伊藤企画広報課長、浅田教育総務課長、野田学校教育課担当課長、
鹿島生涯学習課長、小畑生涯学習課担当課長、白波瀬教育総務課副課長兼係長、阿部教育総務課主任

意見聴取者：山本向陽小学校長、竹林寺戸中学校長

小野向日市PTA連絡協議会会長、熊谷同理事

傍聴者：なし

安田市長：

総合教育会議開会の前に、本日、傍聴を希望される方はおられますか。

白波瀬教育総務課副課長：

おられません。

安田市長：

本日は、第1回教育総合会議を開催しましたところ、お忙しい中ご参加いただき、ありがとうございます。

さて、今週の月曜日から中学校給食が始まりました。現場の先生方にもご協力をいただき、課題等もまだございますが、早く実施できたことを非常に嬉しく思います。給食の実施の必要性を強く感じていたため、全中学校の様子を見て回った際に、子どもたちの笑顔が見ることができ本当に嬉しかったです。

本日の議題でもあります教職員の働き方改革につきまして、昨今の状況から、労働時間や勤務状況などを見直し、心の負担の軽減を図ることが求められております。

しかしながら、私ども行政にも当てはまりますが、自分の業務だけでは完結できない部分が多くあり、児童生徒や保護者と接する中で、時間で切

ることがなかなか難しい部分もあります。学校や市教育委員会だけではなく、P T Aの皆様にもご理解をいただき、協力しながら進めていかなければならない大きな課題と感じております。

本会議には、学校長やP T Aの皆様にもご参加いただいておりますので、ぜひ忌憚のないご意見を聞かせていただければと思っております。

それでは、議題に入らせていただきます。

議第1「教職員の働き方改革について」事務局から説明をしてほしいと思っております。

松下教育部副部長：

「教職員の働き方改革について」の資料1、平成30年度向日市学校教職員の勤務実態（概要）をご覧ください。

本市教育委員会では、平成30年度から教職員の働き方改革の取り組みの一つとして、各公立の小中学校の勤務の実態や勤務の実情の一端を把握するため、また、把握した勤務時間等を各学校に数字としてお示しをして、自らの勤務状況を認識していただくため、出退勤管理システムを今年度の6月から導入しました。

資料は、6月から11月までのデータをお示しさせていただいております。

まず（1）月80時間以上の時間外勤務者の割合であります。長時間労働と言われている時間が労働安全衛生法では月80時間以上からとなっておりますので、その割合をお示しさせていただいております。

向日市につきましては、この6月から11月の間で一番多かった平成30年の10月の割合をお示しさせていただいております。

次に、隣の右の京都府につきましては、平成29年の10月に京都府が実施した調査の割合をお示しさせていただいております。

その隣の全国につきましては、平成28年の10月から11月の平均でデータを取っております。

次に（2）1か月の平均時間外勤務の時間数と平均時間数をお示しさせていただいております。比較の条件は、先ほど申し上げましたように、向日市が平成30年の10月、京都府が平成29年の10月、全国が平成28年の10月から11月の間になっております。

私どもといたしましては、この出退勤時刻の記録をするとともに、月80時間を超える方につきましては、学校を通じて臨床心理士もしくは医師の面談のご案内をさせていただいております。そのご案内は、9月以降から取り組みをさせていただいており、希望される方については、

面談させていただいております。現在までで面談を受けられた方は、小・中学校合わせて3名、面談を希望して予約が完了している方が2名、今のところ延べ5名となっております。

また、併せまして、昨年12月にストレスチェックを今年度から始めさせていただいております。これは、ご自身のストレスの状況を把握し、認識していただくためのものですが、残念ながら12月の一番忙しい時期等に学校に照会させていただいた関係と初年度ということもあり、回答率が50%と少ない状況となりました。

来年度につきましては、実施時期を学校と調整させていただくなどして、回答率を上げていきたいと考えております。

以上でございます。

野田学校教育課担当課長：

続きまして、資料2、平成30年度教職員の働き方改革に関わる状況といたしまして、具体的に行っている内容をご説明いたします。

表が2つ上の段と下の段があります。上の表につきましては、向日市としての取組についてまとめた表になります。

一つ目の出退勤管理システムは、先ほど説明させていただいた内容になります。

二つ目の統合型校務支援システムは、学校の教員が、学習指導要録、成績表・通知票、進路資料、保健関連の資料などを、成績関連や業務に関わる内容について、全て一つのパソコンの中でできるものを、統合型の校務支援システムと言います。これによって先生方が一つのパソコンで作業が行えるとともに、他にも、教員同士でメールのやり取りや情報交換ができるような仕組みで、向日市ではこのシステムを導入しております。

三つ目の学校指導体制の充実は、向日市の予算を使いまして、特別支援教育支援員、学校図書館支援員、スクールボランティア、社会人講師、教育相談のできる専門家等を学校の指導体制に関わらせて、支援体制を充実させております。

四つ目といたしましては、部活動指導方針です。向日市として部活動の指導に関わる方針を今年度策定いたしました。来年度からは、この新しい指導方針を基に中学校では部活動を指導していくこととなります。

五つ目の働き方改革の広報といたしましては、学校だけの周知では不十分でございますので、学校の取組を地域の方にも知っていただくために、学校からの学校便りで各校の取り組みをお知らせするほか、昨年

の10月に、向日市教育委員会と向日市小中学校の連名で作りました、「保護者・地域の皆さまへ（お知らせとお願い）」のチラシを向日市内の各戸に回覧いたしました。

六つ目の行事の精選といたしましては、市の主催事業である小学生夏休み作品展、中学生美術展書道展、中学生弁論大会、中学生英語スピーチ大会は、参加生徒数の人数を減らしたり、全日開催から午前開催とするなど工夫してやっております。

七つ目の会計事務といたしましては、中学の給食の開始に伴い、中学校給食費につきましては、公会計を採用しております。学校の教員等が給食費に関わることがないようにしております。

下の表ですが、各校の取組についてまとめたものになっております。詳細につきましては、記載されているとおりですが、上からノー残業デー、ノー部活動デーの曜日設定、ノー会議デーについて、各学校の取組状況を示しております。また、退勤時刻の設定については、例えば、向陽小学校では、今年度は、月曜日午後5時半、水曜日は午後8時には帰るということを教職員全員で守ってやるなど、各学校の状況に応じて設定をしております。

電話対応についても同じように、学校によって状況は違いますが、表のような取組がされております。

次に、校務の効率化につきましては、会議の持ち方や整理整頓の奨励ということも、各学校で徹底的に行っております。

学校業務全体の見直しについては、学校行事やPTA活動の見直しなどを保護者、地域とともに一緒にやっていると聞いております。

また、その他に現在取り組まれている色々な工夫についても記載しております。

以上でございます。

安田市長：

ただいま、事務局から「教職員の働き方改革について」説明がありました。何か御質問や御意見等ございますでしょうか。

白幡委員：

資料2の中の統合型校務支援システムについてお伺いいたします。

学校の相当大事な様々な資料が一元管理されていますが、情報の流出を防ぐためのルールづくりは、どの程度進んでいるのでしょうか。

野田学校教育課担当課長：

統合型校務支援システムは、セキュリティ対策が施されており、外部に流出しないシステムとなっております。

メールについては、学校と学校、教育委員会と各学校にはつながっておりますが、学校で使用する成績処理については、当該学校のみで完結され、他の学校とはつながっておりません。

成績業務については教職員が持ち出さないよう運営しております。

白幡委員：

システムへの打ち込みについては、学校内でしかできない業務になっているのですか。

野田学校教育課担当課長：

そうです。

松本委員：

資料2の各校の取組でお伺いいたします。

各学校で、午後5時半や午後8時の退勤時刻や部活動をしなない日を作るなど様々な取り組みをされておられますが、これを設定したことにより、現場の先生方の反応や感想、それから午後8時退勤としたことで、翌日の仕事への影響など、問題が起こっていないか、現場の状況を教えていただきたいと思います。

山本向陽小学校長：

本校では、資料にありますように、現在、月曜日は午後5時半、水曜日は午後8時という退勤時間を設けて取り組んでいます。月曜日の午後5時半につきましては、平成29年の5月から実施しております。それまでは、各自に任せ、自由でした。これまでは遅くとも午後9時半には退勤していましたが、働き方改革や先生方の健康状態も含めて、午後5時半の退勤時間への見直しに踏み切りました。当初は、先生方の反発意見が多くありましたが、職員会議を重ね、計画的に仕事をしまししょうということで、時間を意識した仕事をするための一つのきっかけとしました。

あれからもうすぐ2年になりますが、今では月曜日につきましては、午後5時半になると全員いなくなる状況が続いておりますし、中には、仕事を持って帰っている職員もいるようです。ただ、学校にいますと、

どうしてもダラダラと仕事をしてしまうこともありますので、それを防ぐ意味でも時間を意識した仕事ができるように取り組んできた結果、現在は定着してきているように思っております。ただ、この時間だけでは、区切れない問題が実はあります。それは、子育て中の先生方です。ある隣の学校で子育て中の先生の1週間を校長が確認されたところ、朝は午前3時半や4時半に起きて、家事をやり、学校の授業の準備をしてから、子どもを連れて保育所へ行き、帰宅時間は午後6時頃になるのですが、それからご飯の準備、家事、子どもの世話をすると非常に厳しい勤務の実態があることも事実です。この出退勤の時間だけでは測れない問題もあると理解しております。

竹林寺戸中学校長

本中学校も、小学校同様、基本的には、生徒指導であるとか管理職が残らなければならない突発的な事象がない限り、十数年以上前から夜の9時半で学校は閉めることとしております。そういう面では、一定の歯止めはかけております。

ただ、子育て中の先生からは、小学校と同じような状況と聞いております。その先生については、残業時間は月平均10～17時間と非常に少ない時間ですが、子どもを寝かせるときに一緒に寝るが、夜中の1時に起きて3時間ほど仕事をして、4時から仮眠するかそのまま起きていることもあり、ほぼ毎日、教材研究やワークシート、教材のプリントを作っているなど子育て中の先生は大体そのような状況です。

ほかの先生についても、色々な形ですが、早く帰られる先生は、家で仕事をされているというのが今の実態です。

本校では、水曜日を週1回の部活動の停止日とし、ノ一部活動デーにしています。特に、先生方にとっては、朝から生徒が帰るまでの時間ほとんど動いていますから、一番大事な情報共有する時間というのがなかなか取れない状況です。学年会という学年単位で中学校は動いておりますが、この水曜日の時間を設定することによって、子どもたちの委員会活動も全体でできますし、そのあとの学年会等で情報共有もできる時間として非常にありがたい。また、余裕を持って仕事もでき、帰宅時間を早くすることもできるということで、週に1回でもこういう時間があるというのは、先生方にとって一つのリセットになり、すごくいい形となっております。

部活動が大好きな生徒たちも、今日はクラブないと言うと、ちょっと何か肩の力が抜けたリラックスしたような感じで過ごしているように感

じられ、そういう時間も子たちにとって必要なんだなと感じております。ノ一部活動デーは、生徒にとっても教師にとっても良い形でできているのではないかと思っております。

以上でございます。

流石委員：

資料1の教職員の勤務実態でも向日市は、全国的にも働き方について、勤務時間など努力され、いい方向に向かっていると思いますが、行事の精選について、これは先生側からすると積極的にその時間をうまく利用して、いろいろな発表や展覧会の中身を濃くするなど見直しされ整理されているのだと思いますが、保護者からすると、行事の見直しが、先生の勤務時間との関係があるのではという目で見られかねないと思うのですが、その辺の御理解をいただいているのかどうかというところを少しお聞きしたいと思っております。PTAの方も来ていただいておりますが、どうなのでしょう。

小野向日市PTA連絡協議会会長：

PTA関連行事は、保護者の方も参加してもらおうというのがあるので、どうしても土日開催が多くなっています。先生方に対しての負担というのもお願いしている部分があり、その辺り難しいと思います。結果どういいう方向にいけばいいのか、私たちPTAサイドでも考える問題となりますが、保護者と先生が接する機会が普段は少ないので、行事で交流をもってもらおうということがイベントを行う意図でもあるため大変難しい問題だと思っております。

熊谷向日市PTA連絡協議会理事：

私は小学校の会長をしておりますが、私の意見といたしましては、資料に行事の精選と書かれている中のイベントについては、PTA行事とも関連しますが、朝から夕方まで長々とやるより、コンパクトにシンプルにまとまっていた方がお互いにとって良いのではないかという印象があります。時間の削減などにつながるのであれば、保護者も仕事を持っていたりしますので負担が減るのではないか。このように働き方改革を進めていかれる中で、毎年色々なことをみんな考えて、負担が減っていくのが誰にとってもいいのではないかなというのが、個人的な意見ではあります。

流石委員：

逆から見ると、保護者もお仕事されているので、その分を考えると先生の働き方も保護者と合わせて、行事を効率的に考えていくという方向が、これから必要になってくるということなのですね。

熊谷向日市PTA連絡協議会理事：

私の個人的な意見ですけれども、そのほうが保護者も逆に助かるのではないかなという印象もあります。

安田市長：

他にありませんか。

中野委員：

特別支援教育支援員は今どのくらいの人数がおられますか。教育相談の来所・巡回というのが、どのような感じで行われているのかお伺いします。

野田学校教育課担当課長：

特別支援教育支援員の任期や雇用形態は各々異なりますので、活用する時間でいうと小学校1校につき年間1,000時間ほど配置している状況です。具体的な特別支援教育支援員の活用状況については、来ていただいている学校長からお話いただけたらと思います。

もう一つの教育相談については、例えば、授業に立ち歩いている子どもがいた場合に、どういう対策をすればいいか、教育委員会からチームを組んで、子どもを見たうえで状況を学校に伝え、指導のアドバイスを行う支援体制をとっているのが教育相談になります。学校でできることもありますが、できないときは市から見に行くというのも支援体制の一つと考えております。

支援員の活動状況については、学校の方からよろしいでしょうか。

山本向陽小学校長：

特別支援教育支援員さんには、非常に助けてもらっています。今通常の学級で特別な教育的支援が必要な子どもが増えています。担任一人で30人から30数人の子どもを見るわけですが、その中に特別な支援をしなければいけない子がいますので、そういう学級に支援員の方には入っていただいています。全ての学級には入れないことから、課題の大

きな学級に入っただいて、その子たちのサポートをしていただくということで、基本は通常学級の特別な教育的支援が必要なクラスに入っただいています。大変助かっています。

竹林寺戸中学校長：

中学校ですが、本校では特別支援学級に入ってもらうこともあります。小学校でもですが、子どもがパニックなどでかなり行動的に過激なところがあって、クールダウンして落ち着かせることや話し相手を求めている場合には、それぞれの子どもに応じ、きめ細かく丁寧に関係をつくっています。

通常の学級でも特別支援員さんに入ってもらえるのですが、中学校になると思春期の関係もあって、一人の先生が同じ生徒の横についていると、どうしてあの子だけなど、子どもの感情のコントロールなどが課題です。

今、本当に向日市では手厚く通級の制度を作っただいている部分がありますので、その子の特性に応じた日常生活の支援や学力的なサポートを含めてしていただいているのが中学校の状態ではないかなと思っています。

以上でございます。

安田市長：

私は学校間に差があることは非常に好ましくないと思っております。子どもたちは住んでいる場所によって行く学校が違っている中で、行政がこの学校にだけ力を入れているということは、私はこれが一番いけないことだと思っております。以前は学校単位で工事を行っており、それでは差ができてしまいます。私は、お金がかかったとしても全校一斉にやるようトイレの改修も行っていました。中学校給食でも、一斉に始めました。向日市のどこに住んでいても子どもが同じ教育を受けられるべきだとずっと思っています。

だからこそ、割と狭い市域にある学校で、働き方改革に対する取り組み方法に大分違いがありますが、学校ごとに取り組みを変えないといけないような特別な事情があるのか気になります。例えば、ノー残業デーやノー会議デーの曜日など種々いろいろな思いがあってやっておられるのだと思いますが、学校ごとに異ならなければならない理由があるのでしたら、教えていただければなと思います。

山本向陽小学校長：

他の学校を含めた代表として言うのではないのですが、基本的に私が考えておりますのは、学校の運営については、校長が預かっていますので、その学校の実態・課題に応じて校長が判断して、取組を進めていると思っております。私も例えば月曜日にするのも何曜日がいいのか、週末の方がいいのか、週初めではなくて真ん中がいいのかいろいろ考え検討し、週初めにしました。結果、良かったと考えております。それぞれの学校の課題もありますので、その課題に応じて取組の差が出ているように思います。ただ、校長会としては、私も校長会の世話役もさせてもらっておりますが、同じ方向で進んでいこうという方針は一緒なのです。ただ、その取り組み方がちょっと早かったり遅かったりということで、どの学校も同じ方向に向いては進んでいると思っております。

竹林寺戸中学校長：

中学校も今おっしゃっていただいたように、基本的に子どもの実態、それぞれ校区によって子どもの状況が違います。優先順位じゃないですが重要事項というのがそれぞれあり、それぞれやり方があるのかなと思います。月曜日、水曜日となったのもそれぞれ動きがあると思います。本校は、水曜日にノ一部活動デーを実施しておりますが、小中学校についても大体水曜日に職員会議をしている関係で時間が合うということもあると思います。また、月曜日というのは土日の部活動の翌日に必ず休みを取るために月曜日という考え方もありますし、校長の考え方の中で取り組まれているのではないかと考えております。

安田市長：

校長の考え方が子どもに及んではいけないと思います。子どもたちにとっては、どこの学校に行っても一緒です。行政の仕事でも同じですが、違うなら違う理由を、皆がわかるように提示するべきだと思っています。今すぐ対応して欲しいということではないのですが、各校で取組が異なる場合、そうするための理由の説明責任があると考えています。保護者や子どもにたちに対しても説明できるよう、行政であっても教育であっても、その説明責任は果たされるべきものだと考えており、また、今の時代必要ではないかと考えております。

また、PTAの方々につきましては、お仕事もされている方も多い中で、打合せや会議を開催されるにあたり、集まって会議をされる場合や、逆に、メールなどの方法により集まらずに連絡のみの場合と、行事など

の取組み方法について、P T Aの方々の中でも温度差はないのでしょうか。

小野向日市P T A連絡協議会会長：

西ノ岡中学校のP T A本部では、グループラインの活用をしていますが、全員が同じ日に参加できない時もあることから、大勢でフォロー、カバーし合える形で行えるよう、昨年度から役員を増やしました。市長がおっしゃったように、集まらずに済む部分もあるかと思いますが、皆で相談しながら決めていくという形にしたいので、必要な部分は皆で集まって会議をしているのが現状です。

熊谷向日市P T A連絡協議会理事

今年度の第5向陽小学校につきましては、全員がフルタイムで働いている役員です。グループラインは、たくさん活用しています。今年度は活動自体を精査しよう、なるべくシンプルにしようということを目指し、年に何回かやっていた講演会などについても、冊子を配るのみにするなど、先ほどの行事の精選と同じように、第5向陽小学校自体も無理がないP T Aの活動ができるよう、なるべくそのルールを敷いていって、次のP T A役員の方に引継ぎしたい、その足掛かりを今年度頑張り、今の本部の状況を踏まえて作ってきたかなと思っております。

以上でございます。

安田市長：

まさにそうだと思います。P T Aの方もそれぞれ考え方、関わり方が違うので運営が難しいと思いますが、P T Aの皆さんが学校を支えていただいているのは間違いありません。そのため、どうしていくのがいいのか、お忙しい中でのP T Aの活動は、本当に大変だと思います。無理のないようP T A活動を頑張ってください。

永野教育長：

本当にP T Aの皆さまありがとうございます。先ほど熊谷P T A連絡協議会理事がおっしゃられた視点というのはすごく大切だと思っておりまして、お互いの負担が少なくなるような方向で考えるというのは、本当にそのとおりだと思います。そこでいかに理解し合うか、それが各学校でうまく回っていくと大分違うのではないかなと思いました。ちょっと勇気をもらいました。

熊谷向日市PTA連絡協議会理事：

ありがとうございます。ただ、役員をやってる関係ですごく身近に感じています。役員をされていない保護者の方がどれだけ認識されているかという、学校の先生方や学校現場と関わるのが少ないと、学校の状況の把握など、なかなか難しい部分があるように感じます。家庭のことを先生に持ち掛けたりということもあるので、働き方改革を進めるためには、保護者自体も何らかの意識の改革が必要であると感じております。

安田市長：

保護者からの貴重な意見ありがとうございます。そのとおりだと思います。

熊谷向日市PTA連絡協議会理事：

PTA役員の役割はそのあたりにあって、そのかけ橋というか、親の立場、学校の立場の間にいるべきものが本部役員で、そのお手伝いができればと思っております。

安田市長：

前例踏襲をしないことは、勇気がいることで難しいことです。前のおりやるのは楽なため今までどおりとすることが多いです。本来であれば、今までやってきたことが本当に正しいのか見直しを行うなど、判断していくことが必要ですが、やってきたことを止めるのは特にPTAでは難しいと思います。皆さんのコンセンサスを得ながら、新しいPTAの取り組みをしていただくというのは難しいですが、やっていきたいというご意見をいただいて本当にありがたいです。是非、頑張ってくださいと思います。

永野教育長：

働き方改革で今一番恐れているのは、先生という仕事が本当に過酷で、しんどくて自分は耐えられる仕事ではないと思われ、いい人材が来てくれないのではないかとことです。年齢構成がいびつにならないよう計画的に毎年採用して来ていただくことで、仕事が引き継がれていきます。

東北のほうの県では小学校で採用倍率が低くなっていると聞きます。

そうなるとう本当に人材の危機だと思ひます。

先生方が現場で生き生きと意欲を持って、やりがいを持って働けるような環境にするために、行政ができることは行政がやりますし、校長先生にリーダーシップとっていただくことは校長先生にやっけていただきます。先ほどのPTAのお二人のお話があったように、共通理解してやっけていくというのは、行政、学校、PTA全体がそろわないとできないと思ひます。

今まではPTAの皆さんにも、行政として踏み込んで話ができなかったというのが正直なところだす。これを機にまたいろいろ具体的に話が進めればと思ひます。

安田市長：

PTAだけではなく、行政や学校、先生も含め皆が考え方を變えていかなないといけないと思ひます。

今まで午後5時半に帰れないと思っけていたが、帰っけてみると良かったということだす。

山本向陽小学校長：

予約が取れるので歯医者に行けるといふ先生がいました。

安田市長：

だから思っけてやるのも一つだす。やっけてみて駄目な場合は、戻すなど柔軟に対応することが必要だす。保護者の考え方とか世間は我々が思っけている以上に動いていると思ひました。

他にご意見はありませんか。

中野委員：

私の仕事は、例外はございますが退勤時間が少しでも過ぎたらいけない職場だす。そのため、必ず決まった時間に家にいることができます。子育て中の先生にとって決まった時間に家にいられることは、たとえ仕事を持ち帰ったとしても、自分で段取りしながら仕事ができます。朝早く起きなければならないこともあるとは思ひますが、残業するより子どもと接する時間が増え、学校の先生にとってもいいことだと思ひます。若い先生が育ちます。それに子育ても楽になる時がきます。

山本向陽小学校長：

退勤時刻を決めると帰りやすいという話がありました。子育て中の先生が周りの先生を気にしながら私だけ帰っていいのかというふうになっていたのが、皆で一斉退勤であれば、帰りやすいという声をいただいています。

流石委員：

ストレスチェックで、月の時間外勤務の計80時間を超える人に対して様々な努力をされているにも関わらず、回答率が半分ぐらいということでした。ストレスチェックをしなければ自分で確認することができずに、それをしなかった先生たちが埋もれてしまいます。せっかく医者につなぐシステムを考えておられるのに、面談の実施や希望が、今延べ5人ぐらいいるということでしたが、ストレスチェックっていうのは心の領分なので、非常にわかりにくいと思います。ストレスチェックの時間の確保など、今後の課題としてきっちり対応していただきたいと思います。ストレスチェックは、1時間はかからないですよ。

山本向陽小学校長：

10分ぐらいです。

流石委員：

10分ぐらいで終わりますか。パソコンでする分ですね。これもできないというのがちょっと気になりましたので予防策として、回答率が上がる対策をよろしくお願いしたいと思います。

安田市長：

学校は、紙ですか。パソコンですか。

山本向陽小学校長：

インターネットでのストレスチェックです。

ストレスチェックや医師面談、タイムカードを導入していただいて、非常に感謝しています。このストレスチェックの実施率が低かったというのは、初年度というのが一つと、もう一つは、全員が必ずやるというような状況まで先生の意識を持って行くことが必要で、管理職の意識の差も関係しているのではないかと、他の校長先生のお話を聞いて思いました。

流石委員：

私の職場はとても忙しいのですが、ストレスは溜まっていないと出ました。何となく納得し、それでもいいかと思いました。先生たちもその結果ができれば大丈夫だと思いながら仕事に取り組み、逆に言うところかです。ストレス発散されているので、校長先生も安心されると思いますので、是非取り組んで欲しいと思います。

松本委員：

子育て中の先生の方など、家に持ち帰って仕事をしないとできない現状というのがあると思いますが、働く時間を区切るのも一つですし、その中でどう工夫していくのかが大切です。

国全体で働き方改革が言われているときに、この問題解決や手立てを講じないといけないと思います。

働き方改革は、働く時間だけではなく、それ以外の時間をどういうふうに使えるのかが大事だと思います。自分自身の時間というのがどれだけ確保でき、かつ、自分がそれで満足できるかというところが必要だと思います。その辺も視野に入れて広げる手立てを考えていく必要があると思います。

山本向陽小学校長：

向日市教育委員会も職員の働き方改革について、熱心に進めていただいて本当にありがたいと思っています。

まだまだ課題は山積です。仕事の量が多く、見直しをして削っていく。削っていくことができない場合は、人を増やすことになりませんが、人を増やすのはなかなか難しいと思っています。

先ほどPTAの方からありがたいお言葉いただきましたけど、しっかり対話しながら、御家庭に返す分は返させていたいただきたいと思いました。

業務改善や環境改善を図っているところですが、中学校給食で公会計化も進めていただいているように、小学校でも、御支援をいただいたらより進むかなと思いますので、よろしくお願いします。

以上でございます。

安田市長：

小学校の公会計についても、実施していかないといけないことです。ただ、それに対して行政の人員も増やして対応しないといけないので、なかなか難しいのが現状です。

安田市長：

総合教育会議について、様々な立場からご意見を聴きながら開催し有意義な会議となりました。教職員の働き方改革については、行政や教育委員会、学校、PTAとしても目指すところや思いは同じだと思います。

市として、色々な課題を乗り越えていくのが仕事だと思っており、今後も努力していきたいと思えます。

今後についても、ご意見をいただければと思えます。これからもよろしくお願ひします。

本日は長時間ありがとうございました。

これで、平成30年度第1回総合教育会議を終了いたします。